

阿部幸泰先生勉強会感想

<立町たんぽぽホーム>

- ・ 研修を終え、宮城県における福祉の歴史を確認することができて良かったです。阿部先生のお話は、一つ一つとても考えさせられる内容で、興味深く伺うことが出来ました。改めて自分自身確認していきたいと思います。
- ・ 先生のお話を伺い、“人間が人間を大切にする”当たり前の事が“特別”なことではなく、“普通”なこととして考えられるような自分自身に、そして世の中になるになることを願わざにはいられません。
- ・ 今回の研修に参加し、現存の障がい者（児）に関する法律や教育がつくられるまでの背景を知る事が出来ました。障がいあるゆえの差別、命の価値、たくさん考えさせられました。果たして現存では、この差別や障がい者（児）の過ごしやすい社会になっているのか、まだまだ考えていかなければいけないと感じさせられた研修でした。
- ・ 宮城県の歴史を聞くのは初めてでした。先生が、親御さんが動いて初めて制度が出来たことなどを話されていて、改めて行動をすることの大切さを実感しました。障害児を通して、この社会のあり方を考えていくという先生のお話で、私自身も何かを吸収していくなければと思いました。発信しない限り何も変わらないという言葉は、大変実感出来ました。いつも貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 阿部先生のお話を聞いて、障害児福祉の歴史にふれる機会があり、大変勉強になりました。それにまつわり、私は鳴子におばもあり、小さい頃から鳴子のこけしにふれる機会が多々ありました。先生からこけしの由来・名前の由来を聞き、悲しい現実を知らされてとてもショックでした。どんな子どもに生まれて来ても、幸せになる権利は誰にでもあると思います。私は今、障害児の母子通園施設で仕事をすることになり、全ての子どもに幸福になってほしいと少しでもお手伝いが出来ればと日々大切に過ごして生きたいと考えています。ありがとうございました。
- ・ 障害児の全員就学が保障されてからも、就学免除の規定から重症児がはずされることがあります、本当に最近まで障害の重い子どもの教育が蔑ろにされてきたことを実感しました。また、「法」が先にあるわけではなく、障害者自身が行動し始めて体制が出来ていくというもどかしさを感じました。
- ・ 障がい者の皆さんの歴史が、『福祉』の歴史となり得るまでが長かった事実を改めて知った。この平成21年の現在でさえも、「障がい児が生まれたらどこかへやってしまいたい」とはっきり言う、これから子を産む若い夫婦達がいる（福祉関係ではないが）事は、やはりまだまだ一般社会に障がい者達の姿が少ないのだと思う。三越仙台店が、車椅子マークの日本第一号だったことを誇りとし、本当の意味でのノーマライゼーションを、地域の草の根で身近に進んでいってほしいと思う。
- ・ 先生の体験談や、実際に関わった方達の話を交えての講話は、とても興味深く、障害児

福祉の歴史は多くの人たちの情勢、努力、様々な思いが込められ築かれてきたのだと実感しました。「制度が先にあったのではない」…人を動かすのはやはり人の心…一人ひとりが意識をもって行動する大切さを改めて感じました。また生きるとは？命とは？と考えさせられる研修でした。ありがとうございました。

- ・宮城県や仙台市の福祉の歴史…大変興味深く伺っていました。福祉がよりよい方向に進んでいくように働きかけている方が、自分の身近にもたくさんいるということが分かり、自分自身も意識を高めながら過ごしていかなければと身が引き締まる想いでした。信じる気持ちを持ち、色々な人との係わり合いの中で社会を見つめなおし、その中で気づいたことなどを少しでも発信していけたらと感じました。いつも励みになるようなお話、ありがとうございました。今後ともご指導の程、よろしくお願ひ致します。

<大野田たんぽぼホーム>

- ・日々、仕事の中で、障害や福祉といった言葉を使っていますが、どうしてそういう言葉が生まれたのか、どのような経緯があるのか・・
　　こういう職業に携わっている一人の人間として考える時間を作って頂きました。公私もとに、「この言葉の意味は？」　日々、追求することをこれからも大切にしていきたいと思いました。
- ・宮城県における福祉の歴史をお話頂き、「制度が動かすのではなく、親たちが作り上げる」ということが今の福祉施設の基となっているのだと感じました。阿部先生の幅広いお話を伺い、様々な視点から福祉とは？を見つめるきっかけになりました。
ありがとうございました。
- ・今回も先生のお話に元気とパワーをいただきました。物事を深く考え、疑問に思ったことを解決しようとなさる先生の姿勢を見習い、日々学んでいきたいと思いました。
　　40年前の障害者を取り巻く環境を伺い、ここ数10年の間に、やっと環境が整ってきたのだということがわかりました。まだまだ、障害者やその親に対して理解していない日本の社会、誰もが暮らしやすい社会になればと思いました。
- ・阿部先生のお話は何回か伺っていますが、今回は仙台の福祉に貢献された方、制度が作られた過程だということも含めて、先生もおっしゃっていたように、仙台市は自慢出来ること、その自慢出来る都市に住んでいる私達が恥じない生活をしなければいけないことを感じさせられました。
　　ホームヘルプサービスの語源や（地下鉄の）優先席の話も印象に残りました。

- ・ 先生には、毎回、人として改心させられるようなお話を頂き、感謝しております。先生からのお話は、他の勉強会とは違い、本来あるべき姿を考えさせられることばかりです。日々の仕事に追われることを理由に、大事なことを忘れかけていることに気づかせてくれます。「科学技術は積み重なっていくが、人の心は積み重ならない」本当にそう思います。人間ですから、ストレスがたまっていきます。そのストレスに負け、人への優しさは持てなくなっている気がします。でも、自分には優しくしてほしい。ここに期待と裏切りがあるのかもしれません。社会全体が混濁している現在、みんながお互いのことを考え、思いやりを持つという日は、来るのでしょうか？ そんな世の中になり、歳をとっていきたいと思っています。次回も宜しくお願ひします。
- ・ 今回も奥の深いお話を聞きすることができました。過去に親に寄り添い、熱意を持って行動を起こした人々がいたからこそ、今の仙台の福祉があるのだということ、その志しを大切に自分自身、心新たに向き合っていこうと思います。

<白鳥たんぽぽホーム>

- ・ これまで、福祉の歴史を深く知らなかつたので、今日お話を聞き、とても勉強になりました。三越のトイレが福祉トイレの第一号であったことや、ボランティアが仙台発祥であることを知り、驚きました。当時の障がいを持つ方や周囲を取り巻く人たちの行動によって変わってきた福祉であることを、今後も頭に入れ、仕事に励みたいと思います。
- ・ 今回の研修会を通して、障がいを持った方が社会に置かれている背景や立場についても考えさせられました。お話にあったバスの優先席の導入も進歩したものとばかり思っていましたが、本当は一人一人の心がけや気づきがあれば、必要がないものだと気づかされました。今後も、仕事だけでなく、日常の中でも社会で共に過ごす中で、自分でできることも考えていきたいと思います。
- ・ 福祉の歴史について、今まで知らなかつた事実を知り、衝撃を受けたと同時に、辛い立場にいた様々な人たちの力によって、今の福祉があるのだということがわかりました。今では信じられないような考えが当たり前の社会の中、「人間社会は、一人一人が、その弱さを断ち切り、良心に従って勇気をもって発言しない限り、決して良くはならない」という言葉通り、少数意見の中で、戦ってきた方々との思いを忘れずに、福祉に携わっていきたいと思います。貴重なお話を聞かせて頂き、ありがとうございました。
- ・ 阿部先生の福祉の歴史についての講義は2回目でしたが、回を重ねる毎に、歴史の深さ、重さを感じました。制度が先にあったのではなく、障がいを持った本人や、ボランティアの努力によって、制度ができたことは、ビデオで実際の映像を見ると、どれだけ大変で、長い道のりだったのかという思いで一杯になりました。そういう中で出来てきた、たんぽぽホームで働くということに、また身が引き締まる思いがしました。

- ・ 障がい児（者）への理解が増えてきたのが、1980年代と最近であったことが衝撃的でした。普通に道を歩いていて、これは、障がい者の方にとっては不便だな…と思うことがあっても。それを自分の中にだけ留めていることも多く、でも、気づいた私達が声を大にしていかないと伝わらないこともたくさんあることを改めて感じました。また、“たんぽぽに通っている時だけのお母さん”ではなく、24時間育児をされているお母さんであることを。いつも頭に入れて係わっていきたいと思いました。
- ・ 昔の学生のボランティア活動は、すごいなと思いました。今の学生の活動する意味合いが、だいぶ変わってしまったように思えました。昔の学生のような意欲をかき立てる子ども達にするには、自分は何をすべきかを考えさせられました。
- ・ 過去の映像を見て、衝撃を受けました。話には聞いてはいたことでも、実際に映像を見ると、感じることは、また違って、現在の福祉制度になるまでに、色々な歴史があったのだと、改めて思いました。今の福祉制度全てが良いとは思いませんが、昔の人々や環境に比べたら、恵まれているのかな…とも感じました。

<上飯田たんぽぽホーム>

- ・ 宮城県の福祉は当事者と支援者たちの願いを積み重ねてつくってきたことがわかりました。障害児者を抱えている家族が一人で悩まなくて済むにはどうしたらよいのか。乳幼児期の今から一人で悩まないこと、子どもには子どもの人生があること、など親に伝え、一緒に考えていけたらと思います。
子どもをありのままにとらえ、前向きな子育てが出来る支援を大切にしていきたいと思います。「ごめんね」と言いながら脱線していくこともいつも楽しみにしています。貴重なお話ありがとうございました。
- ・ 今回の勉強会では、世界、また仙台の福祉の歴史から様々な事を考え、学ぶことが出来ました。たんぽぽホームの他にも、熱い思いと行動力を持ち、障害者の施設を創設した女性がいたということにとても驚きました。たくさんの方々の大きな努力があって今の制度があるということを忘れずに、私も日々療育を行っていきたいと思います。また、先生に紹介いただいた本やウェブサイトにも目を通してみたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 様々な人々の運動によって現在に至るまでの障害児教育の歴史があるということを知ることができ、大変勉強になりました。資料にあった「人間社会は一人一人が、その弱さを断ち切り、良心に従って、勇気をもって発言しない限り、決して良くはならない。」という言葉がとても印象に残っています。私もこの仕事を通しながらそういった人間の一人になれるよう、人とのつながりを大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。

- ・今回の勉強会では、宮城県内でも福祉を考えるひとりひとりの強い、尊い思いが制度や社会を変えていった事に感動しました。「人の心だけは積み重ね出来ない」ことを考えさせられ、改めて「人として何が大切か、何が必要か」を日々の仕事でも、自分自身問い合わせながら、ひとりひとりと向き合っていきたいと思います、「障害者」というものを社会が作ってしまったならば、社会で責任を持って解決していくことが必要だと感じ、立ち上がり、動くことが出来た方々が、県内でも沢山いらして、今があるのだと強く感じました。
- ・「宮城県内の福祉の歴史」ということで学生の活動や親の会の活動が学校の設立につながっていったということを知り、個人の力が集結したときのすごさに驚きました。ひとりひとりの力は小さくとも、集まれば大きな力になるのだととても励みになりました。ありがとうございました。

<西花苑たんぽぽホーム>

- ・宮城県の福祉の歴史についてほとんど分からなかつたので、今回先生のお話を聞けたことで大変勉強になりました。
- ・講話をありがとうございました。冒頭の中で、「こけし」の由来について話がありましたが、宮城県に生まれ育ちながら、今回初めて知ることができました。また、宮城県の障害児福祉・教育施策の歴史について、今まで知らなかつた事について、今回先生の話から知る事ができ、とても勉強になりました。貴重なお話ありがとうございました。
- ・今回の研修を受けて、特に障害を持った方の社会参加について勉強させていただきました。その昔、「青の芝の会」の運動のビデオを拝見し、自由ということの意味が本当に難しいと感じ、また、一人の人間としての見方、考え方を改めて考えさせられたような気がします。障害のあるなしに人間への援助とは、支援とは何かをしっかりと見据え、保育にあたつていけたらと思います。
環境の作り方、生活の過ごしやすさを少しでも楽になるように一人ひとりが考える必要性を感じました。
- ・ビデオの中から、その時代における障害者の社会的存在をうかがい知ることができたような気がします。現在に至るまでに、当事者やその家族は、様々な状況で社会的に不利な立場にあったこと、また、それらの訴えや運動があつて現在があることなど、歴史を知ることはとても重要なことだと感じました。

・先生のお話を聞きして、いかに一人ひとりの意識が大切であり、個人的な働きから大切な力に発展していくことがよく分かりました。はじめは、一人の小さな活動でもやがて大きくなつていったのは、意識と信念を持って、それを発信し、行動に移された人々がいらっしゃったからだということがわかりました。宮城県でも、困っている人のために、奮闘し、全国へと広がる礎を築かれた人々が多くいらっしゃることを知り、本当にすばらしいと思いました。「困った人がいたら助ける」という当たり前の社会のために、私自身、高い意識を持ち、周囲に発信し、行動できるようになりたいと思いました。ご講話頂き本当にありがとうございました。